

1 プログラム名 「あたたかい言葉かけ」

2 指導のねらい

言葉によって、相手を気持ちよくさせたり、不快にさせたりできる。「つめたい言葉」は、相手を落ち込ませたり不快にさせたりし、「あたたかい言葉」は、相手を気持ちよくさせ、人間関係を深めたりする。本プログラムでは、自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるのかに気付き、「ほめる」「励ます」「心配する」「感謝する」等のあたたかい言葉掛けを、状況に応じて使い分けられるようになることを目指す。

3 獲得目標とするスキル

○相手の気持ちを考え、お世辞ではない、心からの「あたたかい言葉」をかけられるようになる。

4 展開

場面	教師の発問 (○)・指示 (●)	生徒の反応・行動	留意点	時間
インストラクション	●今日は「相手への言葉かけ」について勉強します。 ●何かに失敗して落ち込んでいる時に、優しい言葉をかけられると元気が出てきます。また、成功して喜んでいる時に、それを認めてくれる言葉をかけられると嬉しくなります。こんなふうには「言葉」には、人を気持ちよくさせる働きがあるのです。 ○さて、それでは「落ち込んでいる人」にどんな言葉をかけたら元気になるでしょうか。 ○喜んでいる人には、どんな言葉をかけたらいいでしょうか。 ●そうですね。そのような言葉をかけられると、気持ちよくなりますよね、では、具体的な場面を使って練習したいと思います。「盗難にあって落ち込んでいる場面」と「内定が決まって喜んでいる場面」です。	・どうしたの？ ・私でよかったら話して？ ・よかったね。 ・おめでとう。	・言葉には「感情に働きかける力」のあることを理解させる。 ・どんな言葉が相手を気持ちよくさせるか考えさせる。	5
モデリング	●それでは、ワークシートに書いてある「場面1、2」をやってみますね。○○さんと△△さん、お願いします。 ○△△さん、どんな声掛けをされて嬉しかったですか？ ●それでは、相手を気持ちよくさせる「あたたかい言葉」について整理しましょう。 ○まず、態度はどうだったでしょうか？ ○気持ちはどうだったでしょうか？	・代表生徒は前に出て演じる。 ・それ以外の生徒は、デモンストレーションを見る。 ・「どうしたの？」と声を掛けてくれて、心配してもらったこと。 ・相手に近づく、相手の状況に合わせた声の大きさ。 ・励ます、思いやる。	・代表生徒をあらかじめ決めておく。 ・ポイントを板書する。	10
リハーサル	●それでは、実際にやってみます。近くの人と3人でグループを作ってください。グループができたなら、「落ち込んでいる生徒」「声を掛ける生徒」「観察者」を決めて下さい。 ●役割が決まったら、黒板を見て下さい。 「落ち込んでいる人」に声をかける場面で「良かったところ」は、○○でした。各グループで、その良かったところを実施できるように、練習して下さい。 ●終わったら、どこが良かったか振り返って下さい。 もしも仮に「こうしたらもっといい」というところがあったら、それも伝えて下さい。 ●それでは、もう一度やってみましょう。 <同じように3回繰り返し、全員がそれぞれの役割を経験する> ●続いて「喜んでいる生徒」に声をかけることを実施します。同じグループで役割を決めて下さい。 ●役割が決まったら、黒板を見て下さい。 「喜んでいる人」に声をかける場面で「良かったところ」は、△△でした。各グループで、その良かったところを実施できるように、練習して下さい。 ●終わったら、どこが良かったか振り返って下さい。 もしも仮に「こうしたらもっといい」というところがあったら、それも伝えて下さい。 ●それでは、もう一度やってみましょう。 <同じように3回繰り返し、全員がそれぞれの役割を経験する>	・3人組のグループを作り、最初の役割を決める。 ・ポイントを理解し、グループ毎に実演する。 ・「振り返り」をしっかりと行う。 ・「良いところ」に注意しながら、再演する。 ・グループ毎に実演する。 ・ポイントを理解し、グループ毎に実演する。 ・「振り返り」をしっかりと行う。 ・「良いところ」に注意しながら、再演する。 ・グループ毎に実演する。	・3人で割り切れない場合は、4人グループを作って、「観察者」を2人にする。 ・各グループの活動を観察し、必要に応じて指示する。 ・きちんと振り返りを行い、よりよい「言葉掛け」ができるようにさせる。	25
フィードバック	●今日は、「あたたかい言葉かけ」について練習しました。 ●落ち込んでいる人を励まそうとして声をかけたのに、「余計なお世話だ」と言われてしまったら、ショックですね。でも時に、自分は「親切」だと思っても、相手ににとっては「おせっかい」と感じられることもあるのです。その時には深入りせず、「話したくなったら話してね」と、いつでも待っているということを相手に伝えるだけで終わりにしてください。その繋がりさえ確保しておけば、何とかなります。その人は、その時には、まだ相談できるだけの状態になったのですから。	・相手の気持ちが一番大切だということに気付く。	・時間があれば、数人の感想を聞く。	10

5 その他

「あたたかい言葉」は、人間関係を良くする。演習で実施したことを日常の中に取り入れ、親密性のある学級作りに役立てたい。

板書例

落ち込んでいる人 「相手の近くに行く」「落ち着いた声で言う」「肩を叩きながら言う」
喜んでいる人 「相手に近づく」「落ち着いた声で言う」「笑顔で言う」

場 面 1

1 場面

- ・移動教室の時に、うっかり教室の鞆の中に置きっ放しにしてしまった財布の中から現金が盗まれてしまった。そのお金は、学校帰りに参考書を買おうとして親からもらったものだった。現金盗難の事実を知り、とても落ち込んでいる。

2 役割設定

- ・生徒A 現金をなくして落ちこむ生徒
- ・生徒B 落ちこむ生徒Aをはげます生徒

3 リハーサルの流れ

- ・生徒Aは、現金がなくなっていることに気付いて落ち込んでいる。
- ・生徒Bは、落ち込んでいるAを見て、「どうしたの」と声を掛ける。その後、Aを励ます。

場 面 2

1 場面

- ・難しいと言われていた就職試験の結果を受けとって、無事「内定」が決定した場面。

2 役割設定

- ・生徒A 就職試験に内定をして喜んでいる生徒
- ・生徒B 喜んでいる生徒Aに声をかける生徒

3 リハーサルの流れ

- ・生徒Aは、「内定」の通知を受け取り、喜んでいる。
- ・生徒Bは、喜んでいるAを見て声をかける。その後、Aの喜びを共有する言葉をかける。

あたたかい言葉かけとは

「事実（相手の様子）」＋「感情語（すごい、ありがとう、うれしい など）」

（例）「あんな難しい試験に合格するなんて、本当にあなたはすごい人だね。」

言葉かけの2つのタイプ

①あたたかい言葉かけ

「ほめる」「はげます」「心配する」「感謝する」など（＝相手を肯定し、よい気持ちにさせる）

②つめたい言葉かけ

「けなす」「バカにする」「欠点を指摘する」など（＝相手を否定し、嫌な気持ちにさせる）

あたたかい言葉かけをする上での留意点

- ①相手に近づき、相手に身体を向けて、きちんと相手を見る。
- ②相手に聞こえる声で、はっきりという。（落ち込んでいる人には「静かな口調」で、喜んでいる人には「明るい口調」で話しかける）
- ③表情は軟らかく、相手に構えさせないようにする。

落ち込んでいる場面

生徒B 1 「A君、何かあったの？ いつもの元気がないね。」

生徒A 1 「ああB君くん、実は、鞆の中に入れておいた金がなくなっちゃったんだよ。」

生徒B 2 「金が無くなったの？ だから元気がなかったんだ。」

生徒A 2 「そうなんだよ。帰りに参考書を買おうと思って、今朝母さんからもらってきたのに。」

生徒B 3 「今朝、無理言って、お母さんからもらってきたお金だったんだ。」

生徒A 3 「そうなんだよ。参考書は買えなくなるし、お母さんには何て言っても良いかわからないし、ホント頭に来る。」

生徒B 4 「そうだね。盗んだ奴を見つけたら、ぶん殴ってやりたいよね。」

生徒A 4 「あ～あ、お金戻ってこないかなあ。」

以下、アドリブで続ける。

喜んでいる場面

生徒B 1 「A、やけに嬉しそうだね。何か良いことでもあったの？」

生徒A 1 「いやあB、よくぞ聞いてくれた。実はね、あの難関だと言われていた企業から内定をもらったんだよ。」

生徒B 2 「へえ、それはおめでとう。良かったねえ。」

生徒A 2 「いやあ、ありがと、ありがと。」

生徒B 3 「やっぱりAだよ。性格は良いし学校は休まないし何でも一生懸命やってたもんなあ。」

生徒A 3 「まあ、そうでもないけどね。」

生徒B 4 「天は自ら助くる者を助くってか。俺もあやかりてえなあ。」

生徒A 4 「まあそのうち、Bにも良い風が吹いてくるよ。」

以下、アドリブで続ける。